

1999年10月1日
第2巻第4号(通巻8号)

UA 神奈川学習センター

あき だより

ハイライト

- 1 季節の言葉
- 2 特集: スポーツと大学生活
- 4 放送大学の社会学
- 5 学習センターの増築計画
- 6 読書ノート
- 7 学生団体・サークルの
お知らせ



放送大学神奈川学習センター
〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1
TEL: 045-710-1910
FAX: 045-710-1914

<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>

グラウンドゴルフと私

金子 和子

5年前、夫の定年退職に伴い、永い転勤暮らしを卒業し、生まれ故郷の横浜へリターンしました。もともと外で元気に飛び回る事の好きな性格ですから、各地で遊び仲間との楽しい出会いがありました。終の棲家となるこの地、横浜市中区本牧でも、3年前「グラウンドゴルフ」というスポーツと、その仲間に出会いました。このスポーツは、放送大学と同様に「いつでも」「どこでも」「どなたでも」気軽に始められる、ゴルフのルールを採り入れた生涯スポーツです。

放送大学生となった3年目の秋、このスポーツを千葉学習センターで行なわれた講習会で、日本グラウンドゴルフ協会の戸塚先生から、体育の授業の一環として学びました。私がこのスポーツを自分の生涯スポーツとして選んだのは、自分の持っているあらゆる感覚を1つのボールに集中させ「無心になれる事」からです。幸い、地域に「横浜本牧グラウンドゴルフ同好会」と言うサークルがあり、早速入会させていただき、楽しみながら練習に励んでいます。昨年は、グラウンドゴルフ協会の神奈川県大会に参加しました。女子の優勝は初出場・初優勝と言う快挙で、私達のサークルの女性でした。良い循環はその後も続き、次の公式戦では男子が優勝するなど、会は益々生き生きとし、新しい会員も増え続けて、6人から始まった会は現在30名近くとなりました。

グラウンドゴルフは、個人競技ですから原因も、結果も自分の責任です。スコアが自己申告制と言うところがなかなかユ

ニークではないでしょうか。スティックはサッカー選手の足を模ってデザインされたといわれています。そのスティックで球を打ち、成るべく少ない打数で、目標のホールに入れることを競う競技です。

勿論、握り方や打ち方は自由です。その上、インドア用や車椅子利用の方が楽しめる工夫もされています。その他に、集まる人数や地形により、チーム編成を変えたり、コース取りを考えたり、頭の体操にも、仲間作りにも有効です。これから何かスポーツ始めようと思われるなら、一度グラウンドゴルフをお試ください。加齢と共に衰えるのがバランスをとることで、ボールを追って歩く事で、自然に脚力がつきます。また正確にホール・ポストに入れるためには、自分のボールの位置関係を目測しスティックがボールに当たるときの力を加減しなくてはなりません。この様にボールを打つタイミングを意識しながら体を動かす事は、身体のバランスを保つ上で効果があると、考えられます。事実、参加者の中に80才前後の方が数人居られますが、会場である市民公園まで1キロ程の道のりを、颯爽と自転車でこられます。そして、週3回の練習を殆ど欠かさず出席されて、大変上達されました。

私も定年まで後一年半です。余暇時間が増えたら、遅れている練習量を取り戻し、何とか良いスコアを目指したいと願っています。何故ならば、私がお勧めして後から入られた方がたに負けている現状であるからです。そうはいつても時折出るホールインワンに大いに喜び、勇気づけられて、月曜日の休務日には朝9時に成ると、メンバ

一の居る公園に足が向かってしまうのです。

この度神奈川学習センターの同窓会でもグラウンドゴルフのサークルが発足する運びとなりました。現役とOBの皆様のご参加を心からお待ちしています。

障害者にとって、スポーツとはなにか

「体育実技」担当講師

障害者にとって、スポーツとはなにか。このことをいつも考えながら、わたしたちは身体に障害を持つ学生のために開かれた「体育実技」科目で、放送大学の受講学生とかかわっている。

この科目に「うってつけだ」と思い導入したものに、マジックミットがある。キャッチボールに使う用具だが、グローブ表面にマジックテープが張っており、ボールが当たるだけで、握力がなくとも簡単に捕球できるようになっている。いつもより、楽にキャッチできるので、みんな喜んで加わってきた。ところがである。いざ、捕ったボールをグローブから引き剥がそうとすると、ある程度以上の握力がないと、なかなかうまくいかない。「ガンバレ」と声をかけると精一杯の力を振り絞り、向きを変え握りを変え、苦心惨憺の末、ようやく「バリッ」と剥すことができる。初めて出来たキャッチボールなので、よほどうれしかったのだと思う。次に進もうかと促されるまで、みんなやめなかった。

多くの種目は、かれらにとって今までに経験したことのない運動である。普段生活しているところでは、何でもない、当たり前前の運動でも、そこに意外な未知の世界が広がっていること

に気づく。未知の世界は、案外身近なところに潜んでいる。わたしたちは、普段スポーツというものが、何かを教え学び、技能を高めていくものだと思い込んでいる。ところが、障害者の体育では、スポーツをする仲間に、その人を徐々に引き込んでいくという感じである。技能を高める以前に、その人が容易に入り込める状態をつくり、関心を高めることが大切なのだということを実感する。ここに、いままでと違う、新しい世界が発見できる。

この点でも、いかにみんなの興味をひく実技ゲームを考え出すことができるかが、担当講師の腕の見せ所である。ところが、無い知恵をしぼって考え出した実技ゲームでも、思わぬ失敗はつきものである。スマイル・ボウリングという、10本のボウリングのピンを立てておいて、輪投げの輪を9本まとめて投げて、何本のピンを倒したかを競うゲームを考えたことがある。10本のピン全部を倒したときの爽快感と強烈な音は、言葉ではとても表すことのできないものだ。ところが、この音がクセモノだった。輪を投げるたびに、ピンがまともに壁にあたって、この壁が破れるのではないかと思えるほどの音をたててしまっていたのだ。講義室、図書室、視聴学習室、つまりは学習センター全体に響きわたった。このあと、どのようなことが起こったかは、読者のご想像におまかせするほかない。けれども、かれらの興味を引き起し関心と呼び起こす努力は今後も続けたい。

このような体育実技を毎年行なっていて、いつも考えておかねばならないことがある。障害者の実技では、つねに安全に気を配ること、そしてそのなかから最大の効果を引き出すことが求められることである。けれども、これらにもまして重要なのは、彼らがこの体育実技を行って、じっさいに「愉快であるこ

と」である。もしこのことがないならば、いくら効果をあげても真の意義はないと、わたしたちは考えている。高齢社会では、わたしたちは老眼になったり、耳が遠くなったり、足腰が弱ってしまったりして、みんないずれこのようなことは身近な世界となる。そこで、もしスポーツに興味をもつことがあるとすれば、障害者にとっても健常者にとっても、そこに愉快の要素が絶対的に必要になると考えている。



「障害者体育実技」を受講して

過去に「障害者体育実技」を受講した学生さんのレポート「あなたにとっての体育とは？・体育実技に対する感想・意見」（抜粋）を紹介します。彼らの視点を通して「体育」を意識し直してみたいはいかがでしょうか。

《その1》「体育」という言葉は「体操（規則正しくからだ、手足を動かす運動）」を改めた呼び名ですが、さらに「体育」は“体を成長、発達させるための教育”という意味を持ちます。身体的機能が低下した人達が「体育」をする、つまり、体を動かすことは、身体的機能の低下を少しでも少なくするといった効果が期待されるだけではなく、生きることの充足感、豊かさを自己認識するために必要なものだと思います。よく「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と言われますが、心と体の両方が生き生きとしているときに、生きることの豊かさを実感できるのではないかと思います。

《その2》「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」というのはあくまでも理想であり「不健全な精神は不健全な肉体に宿る」というケースが十分にあり得ることも見逃せません。肉体の機能低下を予防することも重要ですが、その人自身がいかに精一杯毎日を生き抜いていくか、その人らしく輝いていられるかが、最も重視されなければなりません。それぞれの人が、何か目的を持って豊かに生きようと努力すれば、自ずと精神、肉体の機能低下の防止に繋がるのではないかと思います。

《その3》健常者の体育の概念は、健全な身体の発達を促し、運動能力や健康で安全な生活態度を営む態度を養うことを目的として、精神と肉体の均衡ある人間形成を目差すものといえましょう。他方、障害者における体育の概念は、健常者のものとは大きく異なった点が見られます。まず、残された運動機能をいかに維持し、生活への適用をスムーズになさしめ、安全を確保し自らの生活を支えるために、運動機能を最大限に活用しなければなりません。精神面では、団体生活や組織内の生活において、肉体的ハンディからくる社会へのひるみや、これに起因するひがみなど暗い面のあることは事実です。そこで学校教育における体育では、個人的技能の習得よりも団体単位の協力による成果の成就を目差すことが適当でしょう。この意味で、ゲーム的要素を重視した本学の「障害者体育実技」は効果的なものと言えます。

《その4》体育というとても激しい運動で、私の体では少し無理だと思っていました。放送大学に入ってから体育実技のことを考えると気が重かったのですが、第1回目の授業で、激しい運動をすることだけが体育ではないと思いました。この「体育授業」で素晴らしいと思ったことが2つあります。第1

は、どんなに障害の程度が重くても、出来ないと決めつけあきらめずにその人なりの方法で最後までやり遂げる。第2に、1つのことを皆で協力しあい、不都合な点があればもう一度皆で考えること。このように、皆で協力しながら楽しく無理をしない「体育授業」が放送大学の体育でした。

《その5》放送大学の「障害者体育実技」では、「体育」という言葉の考え方が根本的に違っていることに新鮮な驚きを感じました。ある人に無理なルールのゲームがあればそのルールを作り替えていき、出来なければ出来るようにしよう！という考え方をモットーにしていたようです。そこには“できない”という言葉は存在しないのです。障害の程度が全く違う人達が集まっているにも関わらず、全員が1つのゲームを楽しみました。

《その6》私は常々、障害者の体育は「体力を拓く」より「心を開く」ことが大切であると考えています。閉ざされがちな障害者の心を開くことが、身体的機能の維持につながり、社会参加への道も大きく開けていくものと思われま。放送大学の「体育実技」は、「学校の体育」のイメージから想像していたものとは全く異なり、「心のふれ合い」を感じる雰囲気ではじめました。そのように感じたのは私だけではなかったようです。それでいて、「体育実技」に入る前の健康に対する各種の「定量的測定（血圧・脈拍・肺活量・身長・体重等の測定）」には、障害者を対象とした体育のあり方を強く感じました。

「障害者体育実技」は、昨年度までは東京第1・第2・神奈川・千葉・埼玉・群馬の各学習センターで年2回（1回9時間の講義）行われてきました。本年度からは縮小され、東京第1・千葉・埼玉の各学習センターでのみ行われています。

放送大学な人々～放送大学の社会学

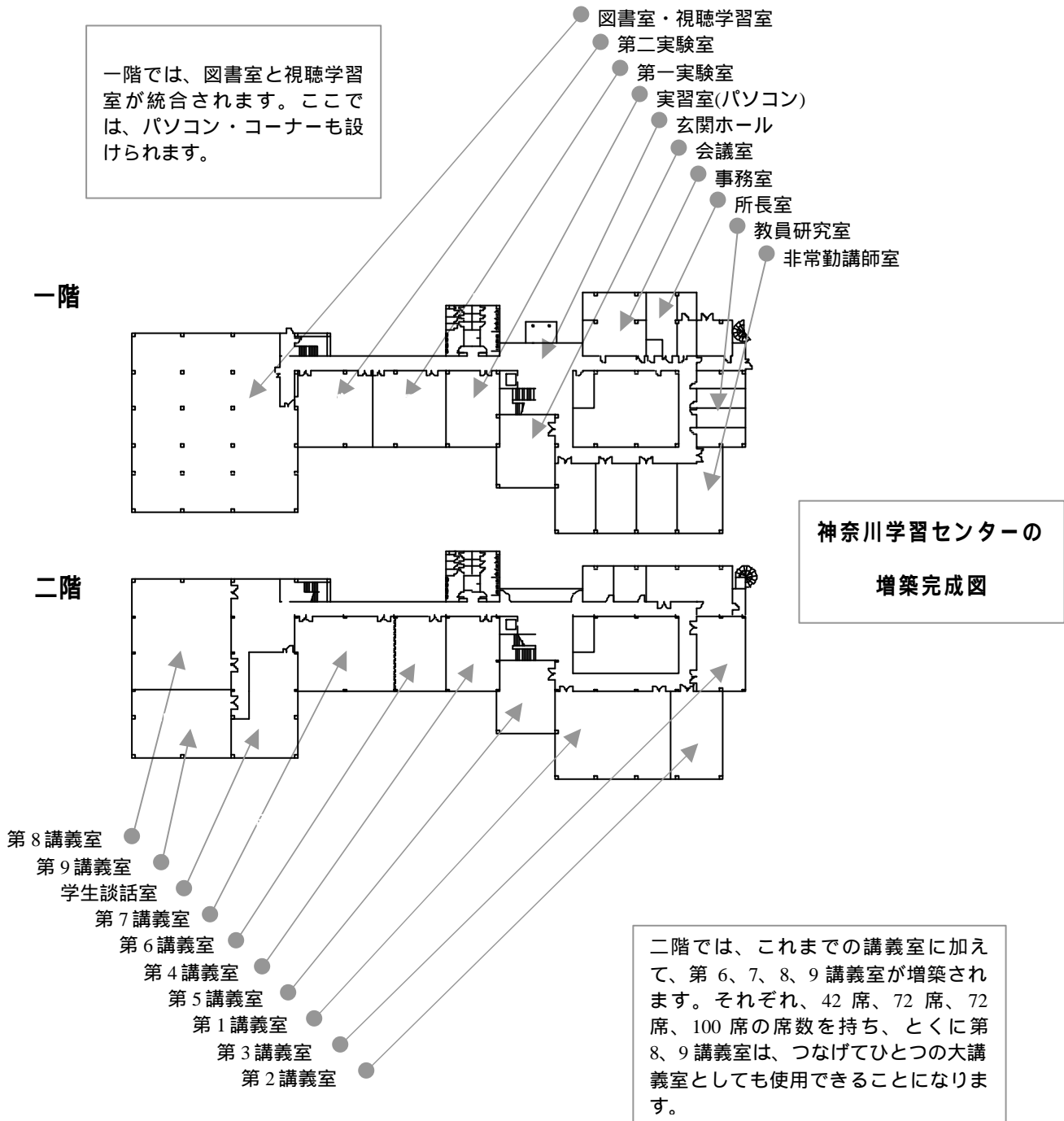
緑川 徹

- A ねえ、緑川さんって、放送大学で教えてるんでしょ？
- B 97年から「逸脱の社会学」をね。「現代社会論」に今年変わったけど、最初の学期は苦労したって。「大学院は研究者養成機関で教育者養成機関じゃないから、講義のやり方は学ばなかった」ってぼやいてたわ。「大学での勉強は自学自習」とか言って、学部の時も授業に出なかったしね、彼。
- A じゃあ、受講生も気の毒ね（笑）。
- B その学期だけは、添削しようがない不出来なレポートも「今後のご活躍を期待します」とコメントして合格にしたらしいから、むしろラッキーよ（笑）。自由感想文を毎回提出させて、受講生の要望も聞きながら講義してたらしいし。
- A 「毎回提出」はキツくなぁーい？
- B 出欠確認が本来の目的だから、名前だけでもいいし、内容も自由なのよ。ケーキ屋情報やダイエット法は大歓迎だとか（笑）。中には、「授業の後、横浜で先生を見ました。女の人と一緒にした」ってのがあったとか（爆笑）。
- A 「家政婦は見た！」ね（爆笑）。
- B それをネタにM・フーコーの「一望監視」や「学校化社会」を喋るんだって。でも、要求してないのに、毎回硬い話の人もいたそうよ（苦笑）。
- A 放送大学の学生ってマジメそー。授業中の私語もないんだって？
- B てゆーか、私語がないのは学生同士のつながりがないせいよ。普段は1人で家で放送聞いている人達だからね。それに熱心さも色々よ。
- A 勉強が好きな人達じゃないの？
- B 「知」をただ楽しむ、という人も多いけど、単位獲得だけに執心の、学位目当ての人もあるしね。
- A 日本はキャリア社会だもんね（嘆息）。
- B あとは、何かを求めてくる人ね。
- A 「何か」って？
- B うーん、うまく言えないけど、自分のレーゾン・デートルの確認かしら。子育てを終えた女性や定年後の男性に見られるタイプね。
- A 「自分探し」ね。街を徘徊してるコギャルと似てるわね（笑）。
- B 中には、人前でただ喋りたいだけの人もいて、質問連発で先生の講義を遮っちゃうんだって（笑）。
- A 「学級崩壊」だ（苦笑）。
- B 「誰かに認められたい」のよね。「自分語り」の人に多いみたい。
- A 人の小説は読まないのに、文学賞に応募しまくるOLみたいね（苦笑）。
- B 自己顕示欲を押えられないのか、自分のレポートを学習センターの機関紙に投稿した際、承諾も取らずに、彼のコメントまで勝手に公表しちゃった人には、彼、キレてたわ。
- A それって、ルール違反じゃんっ！それこそ「逸脱」ね（苦笑）。
- B 心理学の学位目当ての人の中には、「誰かに何かしてあげたい」といった、斎藤美奈子さんの言う「不遜な動機」が多いようだけど、他人が思う以上に自己評価が高いエゴ・インフレって点では、「誰かに認められたい」人と同じね。
- A それは彼も同じ。ニーチェやR・シュトラウス入ってるもん（苦笑）。ねえ、「サイトウ・ミナコ」って、「アッパー/ロウアー」の？
- B それは斎藤美奈子（怒）。老若男女共通のネタを探すのはキツイけど、放送大学は現代社会の縮図だから、やりがいはあるって。でも本を読まない学生が多いとも嘆いてたわ。放送の視聴以外は教材を一冊だけ読めばいい、と勘違いさせちゃうシステムのせいかしら？
- A そーね、本も読まずに「教養」なんかつくわけないしね。
- B 「本を読め。知は一日にして成らず」なんて、最近言ってるとか。
- A 「美は一日にして成らず」のもじりね。彼って、まだ「叶姉妹」がマイ・ブームなんだ（苦笑）。

増築工事のお知らせ

このたび、神奈川学習センターの増築工事を別図のとおり実施することになりました。工事期間は、平成11年10月から平成12年3月までの半年間です。申し訳ありませんが、現在のテニスコート側に増築するため、学生談話室が半年間にわたり使用できなくなります。工事期間中は、騒音及び施設の狭隘等で大変ご不便をおかけしますが、ご協力下さるようお願い申し上げます。

なお、視聴学習室及び図書室も1階増築部分に移すため、使用できない期間(平成12年2月～3月頃と予定しております)があります。移転の日程が決まった段階で、再度お知らせいたします。



贅沢の民主化
The Democracy of Luxury

消費社会を語るときにかならず使われる言葉に「贅沢の民主化」がある。有名な引用では、米国の文明批評家ブーアスティンが書いた『アメリカ人』のなかで、「民主化された贅沢」という言葉を使っている。また、いままでは消費社会論の古典となっているウィリアムズ『夢の消費革命』のなかでも、この「贅沢の民主化」というフレーズは頻繁に出てくる。

この言葉が人びとの心をとらえたのは、消費社会を的確に表している言葉だからである。長らく、消費は「必要性」という規準で、語られてきた。ところが、19世紀になって人びとはかならずしも必要性だけでは、消費活動を行わないようになってきていた。このようにときに、「贅沢」という消費の規準が台頭してきた。贅沢は本来貴族の文化に属するものであった。ところが、贅沢が大衆層に浸透して、ときには大衆を「豊か」にし、ときには大衆を「汚染」してきたのである。

そもそもこの「贅沢の民主化」が初めて使われたのは、19世紀フランス小説家エミール・ゾラの『ボヌール・デ・ダム(The Ladies' Paradise)』である。このなかで、19世紀を表す象徴的な場面として、百貨店の出現を取り上げた。ゾラは、世界初のデパートであるパリのボン・マルシェと、それを創り出したブシコーをモデルとして描いた。画期的であったのは、単に「大衆社会」の権化として百貨店を描いただけでなく、贅沢への消費者意識の変化を描き、多くの人に影響を与えたことを知らしめた点である。

当時の様子を知るためには、この小説の有名な内容を追ってみるのがよい。大正時代に翻訳された『ボヌール・デ・ダム』が、今年になって「本の友社」から復刊された。大正11年に東京の天佑社から、三上於菟吉訳で『貴女の楽園』と題して出版されたものである。

さっそく、今回この本を読むきっかけとなった言葉「贅沢の民主化」を探してみる。ところが残念なことに、この復刻邦訳版にはこの言葉そのものはまったく載っていない。もっとも、この邦訳は読みやすくするために、しば

しば数段落を省略している。だから、この省略部分にこの言葉が含まれている恐れはある。ちょっとニュアンスは異なるが、このフレーズを彷彿とさせるようなところは随所にみられる。第十章のはじめに、「一寸した贅沢品 (little luxuries)」という語句を見つけることができる。この言葉がどのようなものを指しているかと言えば、「レースで覆われた赤い羽根布団、衣裳戸棚の前にひく小さな絨毯、そして化粧品を飾る青硝子の花瓶」をあげている。まぎれもなく、貴族の求める贅沢ではなく、大衆が求めて可能な「贅沢」を示している。百貨店というところでは、貴族のために商品が売られるのではなく、大衆のために商品が売られるのである。けれども、その内容は、大衆の必要とするものとして売られているのだがあたかも貴族が求めるかのように見えて、しかも大衆にも手の届くような商品であった。このように百貨店文化というものが、貴族の消費文化から大衆の消費文化へ橋渡しをしたことは間違いないことがわかる。それは、このようなちょっとした言葉の端々に現れている。

ブーアスティンは、百貨店のことを「消費者の宮殿」とよんでいる。これに類した呼び方が、『ボヌール・デ・ダム』にもみることができる。この小説の中心的な場所である百貨店が拡張計画を持っており、この計画が完成すれば、この地域に「商業の巨大な宮殿のような大建築 (the giant palace of commerce)」ができあがることになる。この百貨店主は、情熱を傾けて、スポンサーである男爵を説得することになる。この時代に、小売り商業の中心となっていたのは、専門店街を形成していた「パッサージュ」である。小売商店中心の分権的な商業が発達していた。それに対して、商業の集積を狙った百貨店が現れることになる。宮殿というイメージは、やはり権力というものを想起させる。大型店の進出で、まわりの小さな小売店が軒並みやられてしまふ、という今日的な問題がすでに描かれている。ゾラの採用した「宮殿」というアナロジーがこの時代とそのあとの時代を描くのに最適なものであったことは確かなことである。

最後に、ここで「贅沢の民主化」という言葉の探索に話を戻したい。この邦訳には、この言葉が使われていない

ことは先程述べたとおりである。ところが、無駄ではないかと考えつつも、英訳本に当たってみる。すると、「making luxury democratic」という箇所を第三章で見つけることができる。この部分の邦訳は意識されており、「流行を普及させていく」となっている。これでは、探しても見つかるわけがない。わかりやすさではこの邦訳の方に分がある。けれども、資料としてみると、文意が曲げられてしまっているのは、たいへん残念なことである。さて、今日この『ボヌール・デ・ダム』を読んでも、小説としては決して面白いものではない。けれども、この小説は19世紀百貨店文化の克明な描写を行っており、消費社会への重要な視点を与えていることで、十分に社会科学的な意味を持っており、このため過去を振り返ってみるうえで、今日でも確実に存在理由を保っているといえよう。

(sense)

原稿募集

次回「ふゆ号」では、「研修旅行」と「私が書いた本」について、特集をくむ予定です。学生の方の原稿を募集しております。研修旅行に加わったの感想や、研修内容についての原稿をお寄せください。それから、最近、学生の方、卒業生の方のなかで、書籍を出版なさった方々が何人かいらっしゃいます。その体験談を特集したいと考えております。経験者の方、あるいは手助けなさった方などの原稿を募集いたします。すこし先のことになります。その次の「はる号」では、例年「卒業と入学」を特集しています。9月と10月には、秋の卒業式と入学者の集いがありますし、また来年の3月卒業を目指して、卒業研究に励んでいらっしゃる方もいると思います。体験談をお寄せください。

学生団体・サークルからのお知らせ

放送大学ダンスサークル

社交ダンスを楽しみながら、体育の単位を取りましょう。指導者がいますので、放送大学の「体育実技」単位取得が可能です。興味のある学生の方なら、どなたでも結構です。電話をお待ちしております。

練習日：毎月第二、四火曜日

時間：15:00～17:00

神奈川学習センター第四講義室
予定(その都度、掲示いたします)

責任者：菊島 コリ子

連絡先：045-741-7591

Nancy Class & “うえるかむ”

今年の7月で Nancy Class が出来て4年になりました。遅々とした歩みですが native speaker の英語には皆慣れてきたようです。

“うえるかむ”は Nancy Class と殆ど同じメンバーでラジオ講座の「英会話入門」、や英字新聞を読んだり臨機応変に興味のあるものを取り入れたりして、オシャベリに花を咲かせています。各支部合同行事では尾瀬や鎌倉散策、また海外の open university を訪問したりオーストラリアで home stay したりと小さな国際交流にも力を入れています。

* 例会

“Nancy Class”

第二水曜 10:00～11:30

第四水曜 10:00～11:30

“うえるかむ”...神奈川...

第三木曜 13:30～15:30

第四水曜 13:30～15:30

各支部合同...毎月一回程度

* サークル参加希望の方は下記へお問い合わせください。

星：045-844-9647

坂本: 0467-31-8036(19時以降)

放送大学同窓会

神奈川学習センター同窓会は、1999年3月で698名の会員を有し3つの柱を掲げ活動を行っています。

1. 会員相互の親睦
2. 生涯学習の実践

3. 社会への貢献

* 今後の予定として

10月3日(日)

久里浜緑地のコスモスとハーブ園

10月17日(日)

グランドゴルフの練習(同窓会のサークル活動) 問合先:TEL & FAX : 621-3387(金子和子)

12月18日(土)

ダンスパーティ(同窓会のサークル活動) 問合先:TEL:781-4638(西浦久晏)

社会への貢献として、フォスタープラン活動へ参画、現在4人のチャイルドを支援しています。今年度は、フォスターチャイルドがどのような暮らしをしているか、われわれの援助金がいかにどのように使われているか、タイのウドンタニへ視察に行く予定です。こちらへ参加希望の方、また、詳細についての質問などは E-mail:NBB02754@nifty.ne.jp 田澤まで

神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助する為に下記の活動をしています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・研修旅行(大学本部・図書館等)
- ・旅にいこう会(行楽地・名所史跡等)

・学習に関する情報交換

・会員相互の研究発表

神奈川放友会は、10月入学の皆さんを心から歓迎いたします。すでに、2学期の放送授業も始まっています。月末には通信指導の問題が送付され、次は1月末の単位認定試験です。

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

・行事予定(10月～12月)

10月2日(土) 歓迎会/例会

10月17日(日) 日帰り旅行(行先未定)

11月20日(日) 例会・研究発表

12月18日(土) 忘年会・例会

照会/入会申込 連絡先

〒235-0023

横浜市磯子区森 1-15-1-810

吉田 昭二

Tel/Fax : 045-752-2783

人間学研究会

行事予定(1999/10～1999/12)

【例会予定】

会場の関係で、10～12月の日程が下記のように変更されています。

10/09(土) 卒業研究発表「クールベから土門拳まで」 発表者: 町田さん

11/21(日) 情報提供と討論「水道の水は安全か」 発表者: 松本さん

12/11(土) 卒業研究発表「土地問題から見た広川村の歴史 - 地租改正を中心に」 発表者: 添田さん。なお、例会後「玄や」で忘年会を予定しています

【歩きましょう予定】

第9回おくのほそ道を歩く(黒磯～殺生石～黒田原)

10/02(土)～10/04(月)

くりはま花の国(コスモス園)

10/16(土)

ヒマラヤトレッキング(ゴキョピクヘ)

10/24(日)～11/10(水)

日本スリーデーマーチ(東松山市)

11/05(金)～11/07(日)

第1回小田原ソーデーマーチ(小田原市)

11/19(金)～11/20(土)

第10回おくのほそ道を歩く(黒田原～遊行柳～白河の関～白河)

11/27(土)～11/29(月)

第7回汽笛一声(新橋～桜木町)

12/23(木・祝)

連絡先: 大出 鍋蔵(0468-41-7937)

放大かながわレク・サークル活動報告

中嶋 博子

放大かながわレク・サークルが、初めて企画、主催したニュースポーツのイベントを、平成11年5月15日(土)に、神奈川県立三浦ふれあいの村(三浦市初声町和田)で開催した。当初は三浦市の人達とレク・サークルの仲間と一緒にターゲット・バードゴルフ(以下TBGと略す)を楽しむ計画であった。

「こんな計画があります...」と神奈川県TBG協会の会長の波多野さんに話したところ、神奈川県TBG協会が後援してくれるという事になり、のんびりと5月15日を待っていたのが、急にバタバタと走り回る事になった。神奈川県TBG協会が後援という事になれば、一般の愛好者が競技会と思って来るにちがいない。

競技会の準備をしなければならない。まず宣伝用のチラシを作ることにした。イベント名は「第一回三浦ふれあいの村ターゲット・バードゴルフ交流&競技会」とした。400枚のチラシは自分たちで印刷し、神奈川県TBG協会、横須賀市レクリエーション協会、逗子TBG協会、三浦市体育館などへ配布した。

「ターゲット・バードゴルフ」というスポーツは、簡単に説明すると、合成樹脂の羽根つきボール(シャトルボールという)をゴルフクラブ(PWにかぎる)で打ち、ホール(パラソルを逆さにした様な形)に飛ばして入れる競技である。ミニゴルフの一種ともいえる。安全性も高く、誰にでも気軽にできる。三浦に参加した最高齢者は84才の男性であった。高齢者でも楽しめるスポーツである。

初めて参加する人の為に体験教室を開くことにして、講師をTBGの仲間4人に依頼した。日本TBG協会の公認指導者の資格を持っているので、安心して任せることができる。無料奉仕にもかかわらず、こころよく引き受けてくれた。当日参加者に記念になるものをと考え、栗を作った。レク・サークルの仲間がイラストを描き、三浦の高校生ボランティアグループの人達が仕上げてくれた。裏にはイベント名、主催者、後援者、協力団体の名をいれた。準備の為、前日から泊まり込んだレク・サークルの仲間は賞品や、参加賞を揃えるのに大忙しであった。資金がないので、賞品は寄贈品でまかなった。優勝者には歌うぬいぐるみのアヒルである。「叩いて下さい」の表示の所を叩くと突然歌い出すのである。後日優勝者から、「孫が喜んでいたら、ありがとう」と言われ、とても嬉しかった。

イベントの当日は心配していた雨も降らず、大勢の人がきてくれたのでホットした。運動広場からは海上を帆走するヨットが見え、鳶は終日良い声でさえずり、トンビは空を悠々と舞っていた。競技会は、ヨットの競技会で使われる、船の霧笛の様な「ポーア」という合図でスタートした。この「ポーア」という音は、ほんとうに三浦にふさわしい音であると、ひとりで感激していた。

今回のイベントは、いろいろな方がたに支えられての開催であった。後援してくれた、神奈川県TBG協会、協力団体の三浦プライマリーセーリング、みうら青年ボランティアの方達、レク・サークルの仲間、こころから感謝の言葉を伝えたい。

ありがとうございました。

第13回フェスタ・ヨコハマ開催報告

8月29日、230名に達する今までにないほど多数の参加者を得て、神奈川学習センターで第13回フェスタ・ヨコハマが開催されました。

午前中は渡邊二郎先生の講演会(演題「美と愛と恋いと詩」と囲碁・将棋大会)があり、午後は恒例の実行委員会手作りのビアパーティで、学習センターの先生のご挨拶から囲碁・将棋の成績発表、ビンゴ大会と盛り上がりました。特に渡邊先生のご講演は参加者全員の人生観にかかわる演題でしたので非常に有益でした。

紙面を借りて、渡邊先生を初め参加者の皆さん及び色々のご配慮を戴いた学習センターに対して厚くお礼を申し上げます。

フェスタ・ヨコハマ実行委員会

放送大学学生募集

平成12年度第1学期

- ・ 出願受付：平成11年12月15日
- ・ 授業開始：平成12年4月1日
- ・ 資料配布：平成11年11月15日から
- ・ 興味のある方・入学を希望する方には、入学手続きや授業内容を記しました募集要項と授業科目案内を資料配布期間になりましたら、無料でお送りします。はがき又は電話で、神奈川学習センターへ請求してください。

神奈川学習センターだより編集部

発行者：新飯田宏

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、斉藤、浅野、坂井

- ・ Internetのホームページは、
<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>
(ホームページで、学習センターだよりのバックナンバーを見ることができます。)

- ・ Eメールの宛て先は、
social@u-air.ac.jp
- ・ 今回の表紙絵は、吉田さんに描いていただきました。編集部では、この学習センターだよりに載せるイラストを募集しております。学習センター窓口まで、お寄せください。
- ・ 前回「なつ号」の記事を読んで、緑川先生が風刺と諧謔に富んだ批判的文章を寄せていただきました。このようなユーモアに満ちた記事は得難いと考え、オープンな場を目指す「センターだより」としては鋭意努力して載せることにいたしました。
- ・ 障害者のスポーツについて、『体育の新しいイメージ』という報告書が放送大学保健体育研究室から発行されています。今回この報告書からの引用をお許しくださいました。白井先生に感謝申し上げます。